

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トゥモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	愛媛県松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成26年9月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>『目配り・気配り・心配り』を運営理念に掲げ、利用者が不安のないよう楽しく毎日をご過ごしていただけるよう支援しています。                  近くには海岸や公園や大師堂があり、天気の良い日には徒歩や車椅子で散歩をして気分転換を図っています。                  隣の敷地の畑で野菜を作り、新鮮な野菜を食材に利用しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は「笑いのあるホームにしたい」と考えており、楽しくおしゃべりできるよう、冗談等も交えながら話題提供をされている。又、利用者の調子等を見ながら声かけ等も考えておられる。職員は「焦ることなく一緒に楽しむ」ことを心がけており、調査訪問時、職員は利用者と一緒に座って過ごすような場面がよく見られ、ゆっくりした雰囲気が感じられた。</p> <p>法人は、職員からの外出や行事の提案を快く受け入れ、実現につなげる努力をされている。職員は、自発的に利用者を交えたカンファレンスを始めておられる。又、他職員がストレスを感じているような様子が見られた時には、話を聴き共感する等しながらチームワークよく取り組まれている。</p> <p>この一年の間には、5名の利用者の看取りを支援された。医師やご家族、職員で話し合いながら、事業所の生活の中で「自然体」で看取することを心掛けて取り組まれた。職員の不安軽減に向け、協力医療機関の協力を得て、終末期の対応やアドバイス等をいただき、勉強する機会を作られた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 山内 栄樹

評価完了日

平成26年9月22日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念になっているかどうかは自信はないが、一応、事業所の理念「目配り・気配り・心配り」及び、具体的な方針「あったか介護・援助の五ヶ条」を掲げており、機会ある度にその共有に向かって努力はしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念とともに、具体的方針「あたたかい雰囲気作りに努めます」「やさしい言葉遣いや態度で接します」「職員は相手の気持ちを思い計る余裕を持って接します」「手を出し過ぎず目は離さず自立の気持ちを大切にします」を玄関に掲示しており、管理者は、カンファレンス時、「利用者にとってどうか」と利用者の立場に立った視点で助言をされている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 運営推進委員さんは事業所所在地地域の区長さん・民生委員さんにも参加していただいております。色々と助言をいただいております。介護に関する相談があればいつでも気軽に相談に来てください等を地域の総会等でもアピールしていただいております。</p> <p>(外部評価) 事業所建物の色がピンク色のこともあり、地域の方の認知度も高いようで、又、訪ねて来る方に案内する時にもわかりやすいようだ。北条北中学校から体験学習を毎年受け入れており、今月10日には、複数の女子生徒が来る予定で、調査訪問時には利用者と職員でレクリエーションの用意をされていた。事業所に併設して介護用品ショップ兼、事務所があり、前の道から入りやすく、地域の方が介護相談に来ることもある。状態が改善してご自宅に戻った方は、近所の方でもあり、お会いすることもあって、お互いに体調等を気遣うような会話をされるようだ。</p>	<p>事業所開設13年目を迎え、管理者は、さらに「地域に出かけていくこと」を考えておられる。今後、地域に向けて、「認知症の理解」「介護保険の説明」等、地域に事業所のノウハウをフィードバックしていくような取り組みもすすめたいと話しておられた。さらに、運営推進会議等を通じて、地域とのつながりを作り、利用者の暮らしを地域に広げていくような取り組みにも工夫をされてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 具体的な活動実績はないが、地域貢献はもっと積極的に行うべきと考えており、中学生の体験学習や民生委員さんらの施設見学は積極的に受け入れている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況や取り組み状況の報告は行っている。助言を活かすことについては、災害規程の作成についての相談をした時には、区長から参考になる意見をいただいたりもした。	
			(外部評価) 会議は、併設の事務所で開催されており、区長や民生委員、ご家族と、新たに職員も参加されている。会議の日には、地域行事等にも配慮して調整されている。以前ではあるが、会議時に、「事業所の前の道は交通量も多く、子ども達が渡ることもあり、横断歩道があると安全ではないか」と提案したことがあり、そのことがきっかけで横断歩道が整備されたようなこともあった。利用者も安全に道路を渡ることができるようになったようだ。管理者は今後、さらなる利用者主体の支援に向け、会議に利用者も参加できるよう、取り組みたいと話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 北条地区では毎月サービス調整会が開かれており、当ホームも毎月参加している。この会には、市の介護保険課・松山市北条包括支援センター・他の介護保険者の参加があり、情報交換の場にもなっている。	
			(外部評価) 事業所は、松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワーク「シニアまもるくん」の家に登録されており、調査訪問時には、地域包括支援センターからファックスで、行方不明高齢者の情報が送られてきて、管理者は、顔写真を掲示したり職員で内容を確認されていた。事業所に介護相談があれば、センターにつなげて支援されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 認知症の進行により、車椅子に座っていても急に立ち上がり転倒しそうになる等の方もおられるが、「何故そうなるのかを考えず」に比較的安易にベルト装着をすることがあり、管理者としての悩みの一つではある。職員の手薄な時間はベルトで対応も致し方ない方もいらっしゃるが、経過観察を記録しながら出来るだけ拘束時間が短くなるよう指導している。	
			(外部評価) ご自宅で行っていたように、ベッド柵等の対処を強く要望するようなご家族もあり、職員は現在、「利用者の安全」を重視した介護計画作成や対処をされている。現在、両ユニットで複数の利用者が車いすの安全ベルトやベッド柵を付けている現状にあり、ベッド柵には高さを付けたり、クッション性のある素材を付け安全対策を施していた。管理者は、月1回のカンファレンス時等に「解決に向け探っていくのが職員の仕事です」と職員に伝え、「トイレで手すりを持って立つ」「体操する時間を作る」等、身体機能を維持向上させることで身体拘束せず、対応できるよう話しておられる。	身体拘束については、拘束することでの弊害も合せて職員で勉強するような機会が求められる。グループホームの特性を踏まえて、現状について利用者の立場に立ち、安全と自由の両面から点検されてはどうだろうか。介護計画にも取り上げながら、職員が一丸となって拘束のないケアの実践に取り組まれてほしい。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉掛けの際の声のトーンや表情も、場合によっては心理的な虐待になり得る場合もありといった“心理面”での虐待がおろそかになりがちである。ミーティング等で虐待防止についての勉強をしたり職員同士で日常観察や他の職員とのこまめな情報交換をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の本を2階のホールに置き、誰でも見られるようにしている。今のところ、必要性に迫られてはいないし関係者からの相談もないが相談があれば対応できる用意はある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族には十分な説明を行い、不明点があればいつでも問い合わせをしていただけるよう説明しているの理解していただいていると思う。改定等の際は家族宛にその内容についての説明文書を送付している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。家族の面会がある時には、管理者の方から要望等を尋ねる様心掛けている。また、年一回は家族会を開いているが、家族からの意見要望はない。家族からの意見の吸い上げに苦慮している。 (外部評価) 管理者は、利用者の状況等についてご家族へ小まめに連絡をしており、「構えない」ようにしてご家族とかかわることを心がけておられる。ご家族の来訪は頻繁にあるようで、口頭で報告したり、又、毎月事業所から個別に手紙や写真を送り、利用者の暮らしぶりを伝えておられる。「ご家族同士が顔を合わせる機会を作りたい」と、毎年、敬老会と併せて「家族会」を開催されており、今年は10家族の参加があった。事業所から、利用状況を説明したり、これからの時期のインフルエンザ流行を見据え、面会の注意事項を伝える等された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや日々の職員との対話で意見を聞き対応し、また、意見を言いやすい環境作りを心掛けている。 職員も交代で運営推進会議に出席し、内容を各階に持ち帰り情報を共有している。	
			(外部評価) 法人は、職員からの外出や行事の提案を快く受け入れ、実現につなげる努力をされている。職員は、自発的に利用者を交えたカンファレンスを始めておられる。又、他職員がストレスを感じているような様子が見られた時には、話を聴き共感する等しながら、チームワークよく取り組まれている。さらに、職員は、事業所の質を高めていくために「職員個々のレベルアップへの取り組み」や「若い職員の力」等の必要性を感じておられた。法人では職員に「年1回は外部研修を受けましょう」と案内を提示等されているが、個々のさらなるスキルアップを目指して、個々のレベルに応じた勉強ができるようなサポート等にも力を入れていかれてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や実績により励ましの声を掛けたり指導したりしている。勤務や労働時間は職員の希望をできるだけ取り入れ、休息が取れるよう勘案している。向上心を持って働けるよう、就業規則の整備を進めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 希望する研修には行っていただき、研修費用や本の購入代金などは会社が負担している。さまざまな研修を職員に知らせ、興味のある研修に行くよう声掛けをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は毎月、松山市北条地区サービス調整会議に出席し、同業者や市の職員、地域包括支援センター等と交流する機会を持っている。今後職員には地域密着連絡協議会が行う相互研修に参加させる予定である。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 世間話などを交えながら極力利用者と話す時間を設ける様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居される前は家族と面談し、困っている事や要望等を聞くようにしている。非協力的な家族の場合は面会時に話す機会を設けたり、在宅時のケアマネジャーに協力をお願いする場合もある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望する支援に出来る限り努めているつもりである。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) リビングや食堂で利用者の話を聞いてあげたりテレビを見ながら一緒に笑ったり、美味しいものを食べて喜ぶ等を共有することで少しは築けているかなと思う。寄り添う会話の時間を取るようにしているが、状態によりなかなか意思疎通できない利用者もいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所までの生活や本人の楽しんでされている事などを聞き、家族の希望や身の回りに使う必要なものの準備等をお願いし援助に繋げている。家族も高齢化してきており、意識の中には入れているが難しい場合もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や地域の方が面会に来られた時は、他の方の目を気にしないよう居室でゆっくりとくつろげる様にしている。 健康報告や生活報告は毎月近況報告としてお知らせしている。 (外部評価) 姉妹で入居している利用者は、お互いのユニットを行き来して会えるように支援されている。調査訪問時、ご家族が先日お墓参りに連れて行ってくださったことをうれしく思っている利用者の方が、「電話してお礼を言いたい」と職員に話しておられた。職員は、ご家族の仕事の都合も踏まえて電話を試みることを伝えておられた。ご自宅に住むご家族と電話でお話することが楽しみな方には、職員が電話を掛け、つなぐ支援をされている。行事時には、1・2階ユニットの利用者がふれ合えるよう企画されており、2月には寿司職人が来て、握りたてのお寿司をみなで楽しまれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は主にリビングで過ごしてもらい、会話がもてる利用者とは話をしてもらっている。職員も間に入り、会話が弾むよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院や自宅復帰などで退所する場合などは、入所前に関わっていたケアマネジャーに報告し、サービスの提供が途切れないようにフォローしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時、本人に聞ける場合は希望等お聞きしている。本人の思いを少しでも聞けるように会話は大切にしている。会話が成り立たなくても、何かヒントはと考えミーティング等で話し合っているが、意向の把握が困難な場合においては職員本位になりがちである。	
			(外部評価) 利用者の以前の暮らしの様子や既往歴等、入居時に詳しく聞くことはせず、その後、ご家族来訪時や利用者との会話の中から聞き取るようにされている。職員が聞き取った情報は連絡ノートに記入するようになっている。10年以上勤務する職員も複数おられ、利用者のことを深く知る職員もある反面、利用者に対して「先入観を持ってしまっているのではないか」と感じることもあるようだ。	利用者個々のことを知るためにも情報の蓄積に力を入れて取り組み、個々の思いや意向、現状の具体的な把握に努めていかれてほしい。情報をもとにして個々の暮らしの希望を探り、介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者、家族、過去の施設から生活全般を聞いたり、情報を見たりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の様子を見ながら、時間を掛けて少しずつ把握している。勤務交替時の申し送りや日誌の記録でその時の状態を把握し、職員同士で共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ケアプランは3ヶ月毎に見直ししている。利用者や家族の思いを聞き、職員同士で頻繁に意見交換や情報交換をミーティングで行い、いろいろな角度から考え介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、担当職員が案を作り、カンファレンスにて他職員の意見を聞き、反映して修正を行い、計画作成担当者が点検等して管理者が確認する仕組みになっている。介護計画は、3ヶ月ごとに見直すようになっており、モニタリングは見直し前に行っておられる。	これまで、すべての利用者分をまとめてファイリングしておられたが、現在、個別ファイル作成を考慮しておられる。アセスメントを含めて介護計画作成一連の流れを再考して、より利用者主体のケアを実践できるような仕組みを作っていかれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日報の記録に基づき情報を得、対応や支援方法を話し合い、ミーティングでも再度全員で情報を確認し支援に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			気候の良いころには近隣を散歩し、馴染みの大師堂にお参りすることもあるが、一人ひとりできているかと言われるとしっかりしている人が優先的になっている。こだわりを捨て、臨機応変に取り組むよう努力に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			安全で豊かな暮らしを楽しんでもらいたいが、支援出来ているかという疑問である。近くの施設の夏祭りも天気が良ければ出かけられるが、悪いと難しい。職員の数も限られ気軽な外出は難しい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者や家族の希望されるかかりつけ医がある場合はそちらの病院への受診支援を行い、特にない場合は同意を得てホームの協力病院の訪問診療や病院受診ができるよう支援している。	
			(外部評価) 入居以前からのかかりつけ医や協力医の受診・往診を受けられるよう支援されている。調査訪問時には、協力医が往診に来られていた。ご家族が直接医師から説明を受けられるように、往診日を伝えたり、一緒に病院に行く等して支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日頃の健康管理はホームの看護職員と相談し、訪問診療や病院受診時に主治医から指示されたことは病院看護師が相談に乗ってくださる。利用者の健康状態は看護日誌に記録し、一目で把握・共有できるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時の情報提供は積極的に行っている。また、入院後は可能な限り見舞い、本人を励ますとともに病院の相談員や看護師との更なる情報交換に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時や終末期については、家族・主治医・管理者・職員を話し合う機会を設定し、対応方針の共有化に努めている。夜間の急変時には管理者がホームにすぐこられる体制も整えている。	
			(外部評価) この一年間には、5名の利用者の看取りを支援された。医師やご家族、職員で話し合いながら、事業所の生活の中で「自然体」で看取することを心掛けて取り組まれた。職員の不安軽減に向け、協力医療機関の協力を得て、終末期の対応やアドバイス等をいただき、勉強する機会を作られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、応急手当や初期対応ができるよう行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っている。 南海地震・津波が発生した場合には職員も被災する場合も当然あり不安ではあるが、防災計画の作成はしている。 (外部評価) 年2回避難訓練を行っており、内1回は消防署立ち合いのもと、職員は順番で実際に消防署に通報する訓練等も行っておられる。事業所で水消火器を購入しており、訓練時の出勤職員が体験されている。2階ユニットは、地域の防災訓練時に習った「竿を使った担架」をいざという時には作ることにしている。市からもらったひな形に地域の方の意見等も採り入れ、「南海トラフ地震防災規程」を作成された。運営推進会議時、区長から「防災士の資格を取ってはどうか」と声をかけてもらっている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者への対応や接し方についてミーティング等で話し合っているが、とっさの時に言葉掛けがうまく出来ていない時がある。気にかけているが、長年居る利用者さんには、いくつか雑な言葉になることがある。指導を行っていきたい。 (外部評価) 職員は「笑いのあるホームにしたい」と考えており、楽しくおしゃべりできるよう、冗談等も交えながら話題提供をされている。又、利用者の調子等を見ながら声かけ等も考えておられる。職員は「焦ることなく一緒に楽しむ」ことを心がけており、調査訪問時、職員は利用者と一緒に座って過ごすような場面がよく見られ、ゆっくりした雰囲気が感じられた。職員は、自分自身の強い口調等に気付くと改めるようなこともあるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) これからする事、してよいか、どうしたいかなど声掛けして介助を行うよう努めている。 認知症が重くなり難しい方もいらっしゃるが、居室で話を聞く時間を持ったり、食後にゆっくり話を聞いて自己決定の支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時として職員本位になることもあるが、意思表示が出来る方には希望を聞きながらの支援に努めている。食事はそれぞれのペースでゆっくり食べていただいている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 爪切り、耳掃除をこまめにしている。希望を言える利用者には意見を聞き、その日の気温や季節に合わせて支援している。数カ月に一度散髪にも来ていただき清潔にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき、豆のスジ取り等手伝ってくださる利用者もいるが、皆さん重度になり、だんだん難しくなっている為、職員と利用者が同じテーブルで食事や水分補給をし、会話などで楽しんでいる。 (外部評価) ユニット別に献立を立てて、職員がそれぞれに買い出しに行き、食事を作っておられる。居間に背を向けるように台所が設置されており、流し台から振り向くと食卓テーブルがあり、食器棚や棚のかごにはミカンや玉ねぎ等の食材も見えて一般家庭のような雰囲気が感じられる。食事前、テーブル席には、箸置きにそれぞれの箸を用意されていた。飲み込みの状態に合わせて食材を小さく切って用意している方もあった。パンを好まれる方が多く、朝食をパンにする方も複数おられる。調査訪問時には、食材の大根葉を下処理しながら利用者同士で「漬物にしたらおいしい」「昔は漬けていた」等、おしゃべりされていた。時間をかけて食事する利用者を見守りながら、食後も席でおしゃべりしながらゆっくりと過ごされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を記録し、食べにくい状態になった人は食事形態の工夫(きざみ・ミキサー・とろみ等)や水分量の少ない人には飲みやすい物などに変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、自分で動ける人には声掛け、見守り、そうでない利用者は居室にお連れして声掛け、口腔ケアしていただく。出来ていない部分は職員が行っている。歯に何か異常があれば訪問歯科医に連絡し処置していただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人ファイルの排泄記録をこまめにチェックし定期的に誘導するとともに、しぐさを観察し、その都度対応している。	
			(外部評価) トイレに誘導したり、介助してトイレで排泄できるような支援に努めておられる。トイレにはL字型の手すりや跳ね上げ式手すりが設置されていた。利用者の状態によっては、自室にポータブルトイレを置いて夜間使用する方もあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事のメニューに便通の良い野菜を使ったり、毎朝汁物を付け、水分をしっかり取ってもらっている。牛乳を使った飲み物をお出ししたりしているが、どうしても出ない場合は便を柔らかくする薬を使用している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の勤務時間の関係もあり、職員の都合で日や入浴時間を決めてはいるが、体調を考え変更したり、ゆっくり入浴してもらうことに努めている。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、職員の提案で浴室の扉を外し、ビニールカーテンにしてシャワー車いすが室内に入りやすいように改修されていた。利用者個々に週3回程度入浴できるよう支援されている。脱衣所や浴室には空間の制限等もあって手すり等の設置も限られているため、職員が入浴用介助ベルトを付け、利用者が介助する職員のベルトを持って立ったり座ったりできるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自分で行動できる利用者は自由に居室で休んでもらっている。出来ない方は様子を見ながら休息が取れる支援をしている。 寝具を清潔に保ち、一人ひとりの状況に応じて休息したり、室温にも気を付け、安心して眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの投薬内容を理解できるようファイルにまとめ、職員がすぐ見られるようにしている。変更があれば申し送りや日誌で全員が把握できるよう情報を共有している。服薬時は名前を確認し、本人に渡し、口に入ったかどうか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味でオルガンを弾いたり、おりがみを折ったり、歌を歌ったり、好んでされることはしてもらっているが、出来なくなっている人が多くなってきた。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気、気温、体調等の問題が無ければ希望あるときは外に出たりしている。家族の要望で外出されることもある。	
			(外部評価) 季節ごとにお花を楽しみに出かけたり、石手寺にお参りに出かけるようなこともある。日々の中では、駐車場に作っている畑に野菜の世話や収穫に出るようなこともある。介護度が重度になってから入居となる利用者もあり、事業所では、地域に出かけていくことが以前より減っている現状を感じており、管理者は今後は、積極的に「地域に出ていく」ことに取り組みたいと話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことで安心できる方一名。小遣い程度だが本人にとっては自立しているという自信に繋がっていると思われる。管理出来ない利用者は事務所の金庫で保管している。ホームの行事で外出したり買い物に行ったりしたときはお金の使える支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があればホームの電話を使用し、いつでもかけることができる。又、家族からかかってきた時は本人を電話口までお連れしお話ししていただいている。今のところ手紙を書かれる方はいないが、出そうと思えばいつでも出せる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入り口を入ると廊下が続き、一目で皆の様子が見渡すことができ解放感が良い。利用者トイレには窓がなく換気が悪いので、換気扇や消臭スプレー、消臭剤で対応している。玄関やリビングには季節に合った飾り付けをしている。</p> <p>(外部評価) 玄関にはソファを置いており、利用者が座って靴を着脱したり、ご家族が来られた時には座って利用者とお話するような場所になっている。1階ユニットでは、昼食後、職員は利用者に「お天気もいいし外に出てみませんか」とひとりずつに声をかけながら誘い、5～6名の方と前の駐車場でひなたぼっこをされていた。又、2階ユニットでは、職員も一緒にソファに座ってテレビを見たり談笑しながらゆっくり過ごしておられた。見学に来られた方は、事業所のことを「やわらかい雰囲気を感じる」と感想を話されるようだ。廊下には外出した際の写真等を飾っておられた。1階廊下の突き当たりの掃出し窓は網戸にしており、調査訪問時には、地域の農家の方や小学生が下校する様子が見えた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファの位置を工夫したり、気の合う利用者同士で楽しく出来るよう工夫している。自分の居場所がわかるよう、ある程度席を決めており、他の利用者さんに迷惑や本人に危険が及ばなければ自由に任せている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを活かして部屋作りをしている。自立している方は、本人の好みの品を飾ったり、植物を置いたり、居心地良く過ごされている。</p> <p>(外部評価) 各居室には、ベッドとクローゼットと洗面所を備えており、職員が持ち寄ったカレンダーを掛けておられた。エアコンからの風がベッドに直接当たらないようバスタオルを使ってカバーしており、温度計で職員が室温を管理されている。食後には、それぞれの居室で歯磨きできるよう支援されていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 車椅子の利用者が増えたのでソファの数を少なくし、車椅子同士がぶつからないように等、その時の状況に応じて工夫している。トイレは場所が分かるよう「トイレ」と張り紙をし、分からないときは誘導している。</p>	